



# 学校だより

9月号

令和2年8月31日

まちのみんなひとつになあれ

## 「今できることをコツコツと」

副校長 恒吉 信一

今年度、新型コロナウイルスの影響で夏休みが短くなり、いつもの年ならまだ夏休みまったただ中である8月17日に学校が始まりました。例年より梅雨が長く、いきなり暑い夏がやってきた感じ です。ここ最近の横浜の最高気温は35℃前後になり、熱中症になる可能性が高まっています。

相武山小学校の校舎内もかなり暑くはなりますが、窓を閉め切ってエアコンを付ければ何でもないと、コロナ禍であるので上手に換気もしながらとなると、熱風も入ってくるので、決して快適だとは言えない状況となっています。

担任は、子ども達が熱中症にならないよう水分をこまめに取るよう促し、暑さ指数を見ながら体育を中止にしたり、新型コロナウイルス感染予防のために、換気、手洗いをするよう呼びかけ、授業の準備もしながら消毒作業をしたりと、私たち教職員も未だかつて体験したことのない緊迫した状況が続いております。

子ども達に目を向けると、登校時、本当は大きな声で挨拶したいところですが、飛沫が飛ばないように生活し、暑い中マスクをして登校しているせいか、やや小さめな声で「おはようございます。」という児童もいます。休み時間には、こまめに手洗いをし友達にあまり近づかないよう意識して生活している姿も見られます。授業では、適度に距離を保ちつつ、マスクをしたままグループ学習を行うなど、表現活動に制限がかかっている中、笑顔で生活しています。

地域の方には、「コロナ禍ですが、子ども達のために、何かお手伝いできることはないですか。何でもやりますよ。」と声を上げてくださる方もいらっしゃいます。残念ながら、今年度は様々な行事を中止せざるを得ない状況をご了承いただくことも多くあります。

私は副校長として5ヶ月間、相武山小で過ごす中、「教職員はもちろん、保護者や地域の方全員が、大切な子ども達が安心安全に学校生活を送り、家庭での感染拡大に繋がらないよう、かつてない困難な状況をいかに乗り越えるかを冷静に考え、実行してくださっている」ということを改めて感じました。また、相武山の子ども達は、子どもなりにこの状況を判断して言われたことを素直に受け止めて実行できるので賢いと思います。

今は大変な時で、人との距離が少し離れて寂しい感じがしますが、健康でいられるよう、最終的に命を守るために、今できることをコツコツと行っている皆様に感謝いたします。

今をしっかりと生きる。今できることを見つける。新しい発見がたくさん出てくる。落ち着くには1年2年かかるかもしれません。でも、明けない夜はありません！前向き前向き！